



あたごふれあい人権文化センターだより 2025 年11 月 1 日発行

発行 : あたごふれあい人権文化センター
住所 : 〒682-0846
鳥取県倉吉市鴨河内 1818-2
電話 : 0858-28-5440 (FAX 兼)
E-Mail : atago@ncn-k.net

あたごふれあい人権文化センターだより「心ゆたかに」
に関するご意見・ご要望をお寄せください。

あたごふれあいサロン活動報告

～介護施設視察研修会～

10月9日、かもがわ地域包括支援センターに協力いただき、関金地区にある施設3カ所を見学する視察研修会に、17 名が参加しました。

- 〔視察施設〕
- ・介護老人保健施設ひまわり
 - ・関金インターケアハウス
 - ・倉吉市高齢者生活福祉センター



各施設では、軽費老人ホーム、入所サービス、ショートステイ、デイケア(通所リハビリテーション)、グループホームなど様々なサービスが提供されていることや、サービスの内容について紹介していただきました。

昼食は、倉吉市高齢者生活福祉センターで提供されている弁当を全員でおいしく頂きました。

今年度のあたごふれあいサロンでは、介護保険のことを学んだり、健康ですごすための講座を開催しています。

今回の施設見学で、より理解を深め、高齢期の自分らしい暮らしに向けて選択肢を考えるヒントになったのではないのでしょうか。

11月のあたごふれあいサロン

日時 : 11月28日(金) 13:30～
内容 : きめこみパッチワークでつくる「干支の壁掛け」
(約15cm角)
材料代 : 1,820円(額付き)、 1,270円(絵柄のみ)
持ってくるもの : はさみ、目打ち、メガネ(必要な方)

※参加申し込みされる方は、11月12日(水)までに、あたごふれあい人権文化センター(28-5440)へご連絡ください。



差別落書きは重大な人権侵害です！

※差別発言に遭遇した場合や差別落書きを発見した場合、また悩みごと、生活に困っていることなど、人権政策課または最寄りの人権文化センターへご相談ください。

人権政策課

TEL 0858-22-8130

あたごふれあい人権文化センター

TEL 0858-28-5440



多様性が尊重される社会に向けて

本市では、「お互いを認め合い、安心して暮らせる人権尊重のまち」を目指し、性別、年齢、障がいの有無、国籍などに関わりなく、一人ひとりの個性が大切にされる社会に向けた取り組みを推進しています。今回は、性別に関する考え方や価値観が多様化しているなか、「多様性」について考えてみたいと思います。



全中学校でジェンダーレス制服を導入

市内中学校では、生徒の多様性に対応するため、令和8年度からジェンダーレス制服（ブレザー等）を導入します。これは、違いを認めることができる学校環境をつくり、多様な中学生の自分らしさを応援する取り組みです。

令和6年度 第43回全国中学生人権作文コンテスト鳥取県大会 入選作品から

奨励賞 「もっと自由に」

倉吉市立東中学校 1年 山崎希乃香

「女の子なのに、そういう服着るんだ」

5年生ぐらいのころ、こう言われるようになりました。その言葉があまり好きではありませんでした。男の人になりたいわけではないし、気にしたこともなかったのですが、心のなかにモヤモヤが残る感じでした。

私は「女の子らしく」「男の子らしく」という言葉がとても苦手です。そんな事言われても、自分の思うように生きたいのに、と感じます。

私は最近「推し活」にハマっていて、お母さんに「高校生になったら、推しのライブを見に行ってみたい!」と言いました。でもお母さんには、「女の子だから危ないよ、近いところならいいかもしれないけど。」と言われてしまいました。お母さんが心配する気持ちもわかりますが、女の子だからという理由で、自分のやりたいことができないのは悲しかったです。自分が女の子に生まれたことが少し嫌になりました。

6年生の頃、下級生をまとめる班長になりました。私は、小さい子の面倒を見るのが好きで、よく自分から話しかけに行っていました。それを続けていると、少しずつ、仲良くしてくれる子が増えました。ある時、下級生の子にこんなことを言われました。

「班長ってなんか女っぽくないよね!」

軽い感じで言われたその一言に、心が締め付けられました。年下の子が言う言葉だからこそ、辛かったです。女の子らしく、男の子らしくするのが当たり前な事が理解できませんでした。

周りの友達からも「○○ちゃんって男の子みたい」だとか言われました。「別にそうでもいいじゃん、本人が気にしている可能性もあるのに」と言いたくなりました。どうしてそんなことをいちいち本人に言うのか、もっと相手を気遣うべきではないかと思いました。

「女性らしく」「男性らしく」ではなく、「自分らしく」生きることができたら、きっと、生きやすい人は大勢います。「○○だからこうするべき」という固定概念を私は無くすべきなのではないかと思います。

これから生きていく中で、性別に対し悩みを抱える人と出会うことがあると思います。そんな時、個性を尊重し、手を差し伸べることができる人に、私はなりたいです。

(鳥取地方法務局・鳥取県人権擁護委員会連合会発行 令和6年度 第43回 全国中学生人権作文コンテスト 鳥取県大会作品集より)

私たちにできること

皆さんはこの中学生の人権作文を読んでどう感じられましたか。

私たちは、多様な面を持ち、いくつもの違う立場を持ち、多くの人や社会と関わりながら暮らしています。

誰もが「自分のまま」で安心して過ごせる社会を実現するためには、これまでの固定的な男女の枠組みから脱却することが求められています。